年少組だより ぐんぐん

雨が多い季節になりました。梅雨ならではの生き物や自然現象に触れ、子どもたちの興味を広げていきたいです。

先月は天候にも恵まれ、無事に親子遠足を行うことができました。

子どもたちが楽しそうにふれあい遊びなどをする姿が見られ、私たちも嬉しく思います。

この度はご参加いただきありがとうございました。

「今月の目標」　梅雨の過ごし方を知る

「今月の活動」

●七夕

七夕祭りに向けて、七夕飾りの制作と曲に合わせ盆踊りの練習します。

●リズム遊び

「南の島のハメハメハ大王」の曲に合わせてカスタネットを使い、リズム打ちをします。

●水遊び

お友達や先生と一緒に、園庭で水鉄砲を使い、水遊びを楽しみます。

お願い

・これから暑い日が増え、喉が渇きやすくなりますので、毎日水筒を持たせてください。水筒はお子さまが使い慣れた物を持たせてください。
尚、水筒は安全の為、斜めがけにするよう園では指導していますので、ご家庭でもご協力をお願いします。また、水筒上部にも記名をお願いします。

・ハンカチとティッシュは体操ズボンのポケットに入れてください。
入りきらないなどの理由で、ポシェットを使用する場合は"自分で"取り外しができる物でお願いします。

・持ち物（ハンカチ、ティッシュ等）には必ず記名をお願いします。
また、通園バック、上靴袋などの記名は見やすい位置に大きくお願いします。

・体操服登園時は名札、バスワッペンは体操服に直接つけてください。（または針の通るワッペンの使用も可能です）

・同じサイズ、同じ靴のお子さまがいますので、外靴の記名（踵の部分）を必ずお願いいたします。

・水遊びが始まります。サンダル、シャツ、パンツ、タオルには、必ず記名してください。

今月の諺

・猿も木から落ちる
・親しき中にも礼儀あり
・雀百まで踊り忘れぬ
・千里の道も一歩より始まる
・備えあれば憂いなし

6月 ステップ

年中組だより

晴れたり雨が降ったり、天気の移り変わりが多いこの時期。
この時期ならではの自然に触れたり、室内ならではの遊びを楽しんだりしながら今月も楽しんで過ごしていきたいと思います。

〈目標〉

・お友達と触れ合って、集団で遊ぶ楽しさを知り、梅雨期を楽しく過ごす。
・友達と一緒に水に親しみ水遊びを楽しむ。

〈予定〉

・水遊びをします。水遊びの用意は園だよりを確認の上、持ち物に記名をしてお持ちください。
・マット・鉄棒を使って運動遊びを楽しみます。
・七夕祭りに向けて、盆踊りの練習・笹飾り作りをします。
・友達と集団遊びを楽しみます。

今月の俳句

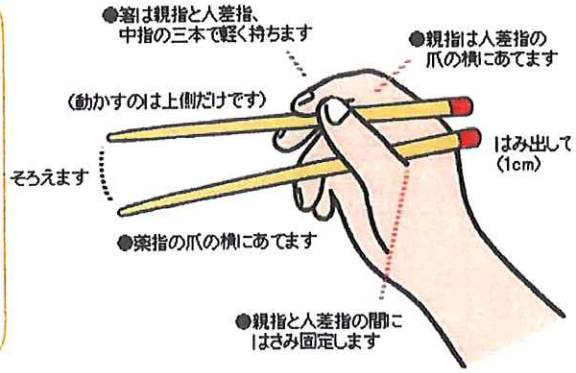
・秋深き隣は何をする人ぞ
・手を打てば木魂に明くる夏の月
・あら尊　青葉若葉の日の光
・名月や池を巡りて夜もすがら
・あかあかと日はつれなくも秋の風
（松尾芭蕉）
・流れ来て清水も春の水に入る
・春の海　終日のたりのたりかな
（与謝蕪村）

〈お願い〉

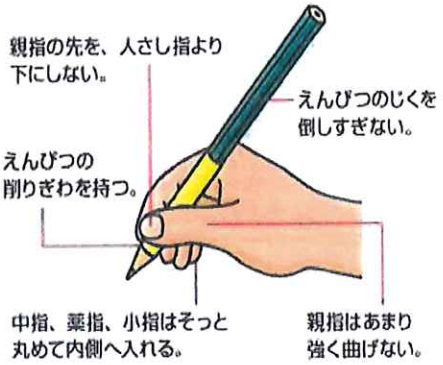
・上靴袋と通園バックの表面に記名をお願いいたします。
・水筒は上から見て分かるよう蓋にも記名をお願いいたします。
・衣替えで、夏帽子と体操服での登園になりました。身だしなみを整える練習をしてください。

〈お箸と鉛筆の持ち方〉

給食の時間やおけいこ帳を通して箸や鉛筆の持ち方を練習しています。
正しく持てているかお家でも確認してみましょう。



★えんぴつの持ち方は、箸の持ち方に似ています。



6月 All Special Memories

年長組だより

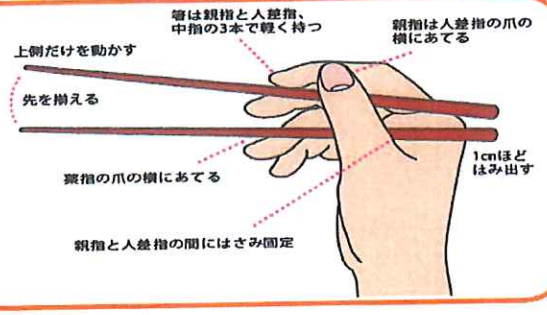
雨の日が多い季節になりました。天気や自然の移り変わりに季節の変化を感じている子ども達。室内や戸外に関係なく、子どもたちは汗ばみながらも日々色々な遊びを楽しんでいます。

今月の目標

・基本的な生活態度を確かなものとする。
・梅雨時の自然現象に関心を持ち、観察する。

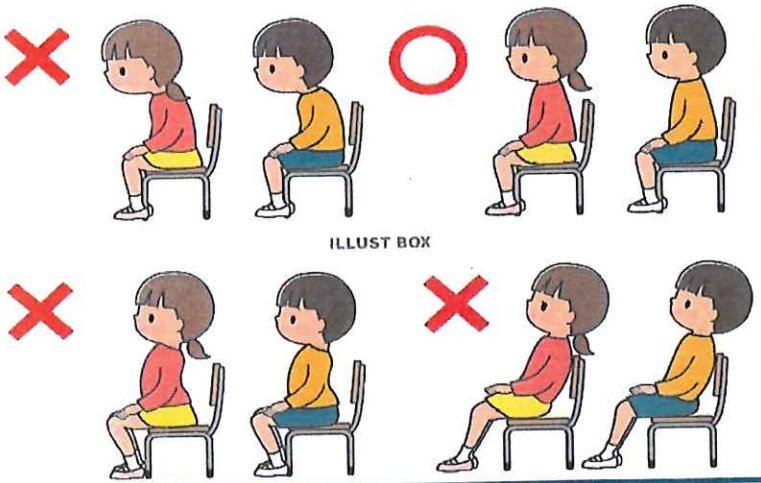
≪正しいお箸の持ち方≫

お箸は日本の食文化の象徴です。正しい姿勢・持ち方で、食事が出来るようにしましょう。



≪正しい座り方≫

椅子に座る時は、背中を伸ばして正しい姿勢で座れるようにしましょう。



6月の予定

先月より、太鼓・打楽器・ピアニカの練習が始まりました。「きらきら星」「七夕祭りの歌」に取り組んでいます。自分の楽器に責任を持ちながら、張り切って練習していきたいと思います。

おねがい

・6月30日(月)に歯磨き指導を行います。
コップ・歯ブラシ・手鏡をご持参ください。

今月の百人一首

一三・君がため春の野に出でて若菜摘む
我が衣手に雪は降りつつ
光孝天皇

一四・立ち別れ因幡の山の峰に生ふる
松とし聞かば今帰り来む
中納言行平

一五・千早振る神代も聞かず龍田川
韓紅に水括るとは
在原業平朝臣

一六・今来むと言ひしばかりに長月の
有明の月を待ち出でつるかな
素性法師

一七・吹くからに秋の草木のしをるれば
むべ山風を嵐と言ふらむ
文屋康秀

一八・月見れば千々に物こそ悲しけれ
我が身一つの秋にはあらねど
大江千里